

令和5年度 高鍋町立高鍋東中学校 学校評価書 (自己評価・学校関係者評価) 4段階評価 【 A・・・よい B・・・概ねよい C・・・あまりよくない D・・・よくない 】

教育目標	自立の精神に燃え、広く敬愛する心を持ち、たくましい創造の力を発揮する生徒の育成に努める。
めざす学校像 めざす生徒像 めざす教職員像	○笑顔と活気にあふれた学校 ○歴史と伝統を重んじる学校 ○地域に根ざした学校 ○ (ひ) 人を思いやり、ふるさとを愛する生徒 ○ (が) がまん強く、学び続ける生徒 ○ (し) しなやかさをもち、心身を鍛える生徒 ○ともに学び、考え、挑戦し続ける教職員 ・生徒と夢を語り、確かな力をつける教職員 ・生徒の心をつかみ、気づき、動き、見届ける教職員 ・生徒の手本となり、尊敬される教職員
本年度の重点目標	1 豊かな心と品性を高める 2 授業力を高め、学力向上に努める 3 信頼される学校をつくる 4 伝統を守り、発展させる

評価項目	方策・手立て	評価指標	自己評価		学校運営協議会委員評価	
			標	総合		
高鍋町重点指導事項	【知】 授業改善 家庭学習習慣の定着	○ 指導力向上を目指した教材研究を通して授業改善に努める。 ○ 授業で学習したことを家庭での復習につなぐために、『Qubena (キュービナ)』を活用する。	○ 「わかる授業」をめざした教師の指導力の向上を図るため、授業が分りやすいと答える生徒を80%以上にする。 ○ 自分から進んで家庭での学習に取り組む生徒を80%以上にする。	B C	B	学習した内容の定着が課題である。少人数・教え合い学習等を活用しながら「個別最適学習」、「協働的な学び」を推進し、授業の改善を図る。課題の取り組み方に差があり、昼休み等に補充しているが、なかなか時間が足りない。キュービナの導入もあるが、家庭学習の取り組み方の改善、課題の提示の仕方にも工夫が必要である。 生徒の成長を願う先生方の取組を強く感じることができました。来校者の靴を並べる様子を見て、日々の成果を伺うことができました。子どもと教師の信頼関係が良く醸成されていると感じた。 キュービナの導入によって自宅でも勉強時間が増えたと思います。
	【徳】 基本的な生活習慣の定着 明倫堂の教えの推奨	○ 学校教育活動全般を通して率先した「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」を体得させる。 ○ 『明倫堂の教え』を学級で素読、暗唱する。	○ 日常生活の土台となる「あいさつ」「返事」「靴並べ」「整理整頓」「大きな声で校歌を歌う」の習慣化を図る。 ○ 社会的なマナーが身に付いている生徒を80%以上にする。 ○ 学校・家庭・地域において「明倫堂の教え」を推進し、80%以上の生徒が実践できる。	B C	B	最近では学習の進みの速い生徒が増えてきている。問題集などで添削するとよい。 自宅学習やアウトメディア等、家庭との連携、協力が必須であると感じる。 「思春期」ということもあるかもしれないが、あいさつが少ない。声をかけても会釈をするくらいで言葉を発する生徒が少ない。 あいさつは同じ地区の生徒はよくしてくれます。小学校からの集団登校の素地があり、その積み重ねだと思います。長いスパンで評価することも大切かなと感じます。初めての『ひなた場』は大変良かった。また将来の目標を持っていない生徒がいた。
	【体】 生活のリズムの確立	○ 早寝・早起き・朝ご飯について、学校だよりや学級通信等で啓発する。 ○ 1130県民運動(1週間に1回以上30分以上の運動をする)を日常的に推進する。	○ 早寝・早起き・朝ご飯の実践者(生徒・保護者)数を90%以上にする。 ○ 1週間に1回以上30分以上の運動をしている生徒を80%以上にする。(授業は含まず、部活動等は含む)	B B	B	設備投資については良い取組だと思いますが、検証を行っても良いと思う。 実務者会議の機能を生かした地域ぐるみの防災訓練の取組が期待される。
	【信頼される学校づくり】 学校運営協議会の充実 幼保小中高連携の推進	○ 学校運営協議会のリーダーシップ、実務者会議の機動性の発揮、地域コーディネーターと連携した取組を行う。 ○ 学力向上や防災訓練、各種行事等における幼保・小・中・高等学校との更なる連携を図る。	○ 学校を地域や社会に開き、「地域の力」を学校経営に生かし、70%以上の生徒・保護者が十分実感できている。 ○ 幼保・小・中・高との連携の在り方を模索し、連携した行事等を5回以上とする。	B B	B	読書については、これまで設定していた時間がなくなり、より限定的になり指導が難しい。読み聞かせを含め、指導の時間の確保が必要である。
知育	分かりやすい授業の実践	○ 授業の中で理解が進まない生徒への支援方法を全職員で研究し、指導力の向上を図る。	○ 授業が分かりやすいという生徒を80%以上にする。	B	B	町内の書店が少ないため、図書館利用を進めていければ良い。
	読書の推進	○ 読書環境の充実に努めたり、読書感想文等のコンクールにも積極的に応募し称賛したりする。	○ 本を読む習慣が身につけている生徒を80%以上にする。	C		
徳育	豊かな心の醸成	○ 道徳の時間の指導を充実させるとともに、様々な行事(命を大切に教育週間等)や体験活動を通して社会的なマナーや優しさ、思いやりの心を醸成する。また、マイスクールライフ(生活の記録)を通して担任と生徒とのやり取りを毎日きめ細かく行うとともに、アンケートや教育相談によって気になる言動の早期発見と対応を行う。	○ 優しさや思いやりの心を大切にしているという生徒を80%以上にする。	B B	B	「いじめ」や「自殺」の問題は、社会の大きな課題となっていますが、安心して学校生活を送れる環境づくりを目指して欲しい。 東中では、かつて石井十次を題材にした道徳の授業を行っていたが、継続が期待される。
	一人一人の居場所づくり	○ 授業をはじめ、係活動や委員会活動、ボランティア活動、部活動などのあらゆる学校生活の中で、生徒の適性に応じた活動場面を工夫する。	○ 学校が楽しいと感じている生徒を80%以上にする。	B		
体育	体力の向上	○ 一人一人の新体力テストの実態を把握させながら、体力向上プランに基づいた体育指導や部活動等指導に努める。	○ 新体力テストにおいて、各学年男女4項目以上で県平均を上回る。	B	B	楽しい運動を考えられないか。日頃から持久力を高めるように練習すると良い。保護者の車による送迎の増加が気になる。
	食育の推進	○ 学級活動や給食時間、「弁当の日」の取組等を通して食育を推進する。	○ 「弁当の日」の実践において、弁当づくりに関わる生徒を80%以上にする。	A		
地域・家庭との連携	○ 参観日や学校・学年・学級だより、さらにHP、安心安全メールなどで家庭や地域との意思疎通を行う。地域でのあいさつ運動を地域とともに推進する。	○ 学校からの配布物を保護者に渡す生徒を90%以上にする。 ○ 家庭と学校が意思疎通をきめ細かく行っていると感じる保護者90%以上にする。	B	B	メール等での配信は効果的ではあるが、プリントでの連絡は十分でない面がある。兼用する場合の伝え方を考える必要がある。 PTA活動の変化に伴い、お互いの意識にも変化が見られる。プリントやメールといった学校からの連絡以外では、実際に話をするなどの機会を作る必要がある。	

伝統活動の継続	○ 正姿黙想や無言清掃、目立てをすべての生徒に確実に実行させる。伝統活動の意義や母校に対する誇り・愛着を継続して育む。	○ 職員が「黙想・無言清掃・目立て」の伝統活動をきちんと指導していると感じている保護者・生徒を90%以上にする。	B	伝統活動の意味をしっかりと伝えていく必要がある。形(行動)のみの継承にならないようにするために、生徒自身の意識高揚の手立てを考える。	授業を参観して黙想の時間が深く浸透していると感じた。	B
進路指導の充実	○ 各学年に応じた進路学習やキャリア教育を通して、自分の将来について真剣に考える生徒を育成する。	○ 進路先や将来の職業などについて、自分の考えをもっている生徒を80%以上にする。	B	キャリア教育を柱とした進路指導に取り組んでいる。今後も系統的な取組のもとビジョンの構築と合わせて具体的な行動に繋げていく。	夢をもち、夢を語る場が工夫されると良いのではと思います。	B
特別支援教育の充実	○ 特別支援教育の視点を重視し、合理的配慮の提供など、個に応じた支援などを工夫する。学習指導や生活指導をする。	○ 校内支援委員会やケース会議等を週に1回程度実施し、職員の共通理解と実践を図る。	A	週に1時間の設定であるが、実際には時間が足りない現状もある。組織的な取り組みに必要な時間であるので、会の内容をしっかりと職員に共有され、実践できるようにすることが大切である。	特別支援教育の視点を全体で共有しているのは、意義があると思う。	A

【次年度の方向性についての校長所見】

本校は、生徒たちの様子からも今回の学校評価からも、落ち着いた学校で概ね良好であり、県内でも誇れる素晴らしい学校である。課題としては学力向上であるが、校時程を変更したり、キャリア教育等の様々な工夫した取組をしたりする中で、改善は見られつつあるが、目的意識や家庭学習の時間不足等から、自発的に自ら進んで取り組む態度を育てる必要がある。次年度においても、学校のあらゆる場面においてこのことを意識した取組が必要であり、保護者や地域の協力を得て、改革・改善に努め、伝統ある本校をさらに発展させたい。